

地方都市における「貧困」に対する社会的組織化の研究
— 専門家集団 / 「当事者」による公共圏と親密圏の再編成 —

**A Study on the Social Organization vis-a-vis “Poverty” in Local Cities: Reconstruction of
Public and Intimate Spheres by the Professionals and the “Poor”**

西川 知亨（京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員）

【ねらいと目的】

本近年、グローバル化の影響下での格差の拡大と貧困の問題化にともなって、「派遣村」活動が地方都市にまで広がっている。この文脈で衰退言説が主流となっている「公共圏」をいかに組織化していくことで、「当事者」の「親密圏」の再組織化過程が促されていくかという研究こそが、短期的および長期的視野に立った社会編成・政策研究にとって必要であるように思われる。本研究の目的は、アジア・日本社会史上、象徴的かつ重要事例となっている「Tショック」下にある愛知県名古屋地区～三河地区を対象として、司法・医療・福祉等の専門家集団が創成を目指している「公共圏」が、貧困「当事者」たちの「親密圏」と絡み合う諸相を考察することで、社会的組織化が図られる条件とその可能性を明らかにすることにある。この目的を鑑みると、とくに次のような研究が必要である。第1に、専門家集団の組織化の可能性の研究である。貧困「当事者」を支援しようとする人びとのインセンティブの研究と、「異なる正義感」を持つそれぞれの分野の専門家たちの集約過程の研究をおこなう（参与観察調査、非構造化インタビュー調査）。第2に、貧困「当事者」とされる人々の資本の再組織化過程におけるセーフティネットの研究である。福祉多元主義や福祉ミックスと呼ばれる福祉の時代においては、貧困状況にある人びとは、流動的な福祉資源を有する公共圏を活用して親密圏を組織化していく可能性がある。当事者たちの公共圏と親密圏の再編成の過程を、セーフティネットの多元性を勘案しながら調査をおこなう（相談票分析による計量的調査、非構造化生活史法調査）。

【活動の記録】

<調査活動の記録> 2009年7月6日～8日・西川知亨・名古屋市・参与観察等、2009年7月16日～17日・西川知亨・名古屋市・参与観察等、2009年7月25日・西川知亨・岡崎市・参与観察等、2009年8月1日～2日・西川知亨・刈谷市・参与観察等、2009年9月2日～3日・西川知亨・豊橋市・インタビュー調査等、2009年10月3日～4日・西川知亨・豊橋市・参与観察等、2009年11月8日・西川知亨・岡崎市・参与観察等、2009年11月28日～29日・西川知亨・北九州市・参与観察等、2010年1月30日～2月1日・西川知亨・豊橋市・参与観察等、2010年2月28日～3月1日・西川知亨・一宮市・参与観察等（ただし、GCOE 次世代ユニット「都市セグレーションと貧困地区における新たな親密圏の可能性——ヨーロッパ、日本、アジアの大都市国際比較」プロジェクト<ユニット幹事・川野英二>と連動）

【成果の概要】

愛知県内の3つの派遣村実行委員会の活動（相談会、交流集会、親睦会、実行委員会など）や、それらの活動と深いかかわりをもつ「全国クレ・サラ・商工ローン・ヤミ金被害者交流集会」（約1500人が集結）と、その分科会（「派遣村」部会）、さらにそれにとまなう、韓国・台湾などのアジア諸国からの法律家などとの意見交換会への参与観察をおこなった。また、生活史法により「貧困」の窮状を訴えていた相談者へのインテンシブなインタビューをおこなった。さらに相談会における相談票分析など、派遣村活動に関する各種ドキュメント資料の質的・量的検討を進めた。これらの調査を通じて、「貧困」への対峙をめぐる公共圏と親密圏の再編成に関する質的・量的なデータを収集・整理（近年の社会調査概念における「作成」）した。その分析結果による主な成果は、以下の通りである。

① フランクフルト学派に由来する公共圏分析（ハーバーマスからフレイザーらに連なる系譜）と、シカゴ学派に由来する親密圏分析（バージェスの友愛的・相互作用的家庭論などを一源流とする系譜）を、シカゴ学派のひとつの意義と報告者が考える「総合的社会認識」を活用して絡み合わせることで、貧困に対峙する公共圏と親密圏の再編成に関する時間モデルと空間モデルを構築した。

② そのモデルで示したのは、「貧困」問題を解決すべく専門家たちが構築した対抗的公共圏が、別の対抗的公共圏（や市場社会等）を巻き込みながら、もともと傾向として批判的・反発関係にあった国家・行政とも協力関係を築くようになり、さらには多元的な親密圏の豊饒化に影響を与えているということである。

③ 対抗的公共圏の変容による親密圏の豊饒化に関しては、生活の再組織化において、社会関係資本のほかには、生活解体前より有していた当人の「資質」が果たす役割の重要性について明らかにした。

